

紀要投稿規程

(平成18年5月10日改定)

1. 藍野学院紀要は、本学および本学の関連施設などにおける研究成果発表を目的として、定期的に刊行する。
2. 投稿者ならびに共著者は次のものとする。
 - 1) 藍野学院教員
 - 2) 藍野学院卒業生
 - 3) 恒昭会関連病院職員
 - 4) 編集委員会の認めたもの
3. 論文の種類は総説、原著、報告、論説、資料とする。但し、内容は他の雑誌に未掲載のものとする。
 - 1) 総説は特定の主題に関連した研究を幅広く概観したものとし、編集委員会の依頼によるものとする。
 - 2) 原著は明確な構想に基づき、研究をまとめて、一定の結論を与えたものとする。
 - 3) 報告は調査、症例研究、事例研究などから得られた知見をまとめたものとする。
 - 4) 論説は主題に関する理論の構築、提言をしたものとする。
 - 5) 資料は上記の分類に該当しないが、学術的価値が認められるものとする。
4. 原稿の分量および形式は原則として次のとおりとする。
 - 1) 原稿は和文とする。A4版用紙(40字×40行)を使用し、横書きとする。
 - 2) 原稿の長さは原則として本文15枚を限度とする(図表、写真は1点を4分の1枚相当としてこれに含める)。
 - 3) 原稿には和英別紙の表紙を付し、それぞれに次の事項を記載する。論文種類(3を参照)、表題(和英)、著者名(和、ローマ字)、所属機関(和英)、ランニングタイトル(20字以内)、キーワード(和英とも5語以内)、連絡先および別刷希望部数を付記する。
 - 4) 句読点は「。」、「」を用いる。
5. 原稿の内容、配列は原則として以下のようにする。
 - 1) 原著論文(報告を含む)
 - ① 表紙
 - ② 英文要旨(300語以内)および和文要旨(400字以内)
 - ③ はじめに
 - ④ 対象と方法
 - ⑤ 結果
 - ⑥ 考察
 - ⑦ 謝辞
 - ⑧ 助成金に関する記述
 - ⑨ 文献
 - 2) 総説、論説、資料は、この内容、配列によらなくてもよい。但し、論説、資料の場合は本文の前に英文要旨(300語以内)、和文要旨(400字以内)をつける。
 - 3) 図表については以下のようにする。
 - ① 図表あるいは写真は1枚ずつ別葉とし、それぞれ一連番号を記入のうえ、本文末尾にまとめる。
 - ② 図表あるいは写真の説明は本文末尾に別紙としてまとめる。
 - 4) 年号は西暦を使用し、元号については西暦(元号)年とする。一般的ではない外国の用語、人名、地名は原語もしくはカタカナ(最初は原綴りを併記すること)で書くこと。略語は本文の最初に出たところでスペルアウトする。
 - 5) 学名はイタリック体を用いるか、アンダーラインで明示する。単位、数量はSIユニットを用い、数字はアラビア数字を用いる。
 - 6) 引用文献は以下のようにする。
 - ① 本文中に引用の場合、本文中の該当箇所の右肩に順次番号をつける。
例) :小島ら¹⁾, Ayliffe et al.²⁾
 - ② 引用文献は本文末に「引用文献」として一括して、本文中の出現順に配列する。
 - ③ 引用文献の表記についてはバンクーバースタイルに準拠する。なお雑誌名には略記を用い、医学中央雑誌、Index MedicusあるいはINI(International Nursing Index)に従う。
 - A. 雑誌の場合
著者氏名、表題、雑誌名、出版年; 巻(号): ページ。
例1) 小島道代, 外崎明子, 秋山照男. 感染に関する看護研究—今後5年間の課題—. 看護研究1994; 27(4): 256-63
例2) Ayliffe GA, Collins BJ, Lowbury EJ, Babb JR, Lilly HA. Ward floors and other surface as reservoirs of hospital infection. J Hyg 1967; 65(4): 515-36.
 - B. 単行本の場合
著者氏名、表題、In: 編者等氏名、書名、発行地: 出版者; 出版年、ページ。
例1) 森博愛, 齊藤憲. 神経・筋疾患. In: 森博愛編. コメディカルのための内科学. 東京: 医学出版; 1994. p.344-421.
例2) Burr B. Diabetes and the marathon. In: Burr B, Nagi D, editors. Exercise and sport in diabetes. New York: John Wiley & Sons; 1999. p.123-35.
 - C. Web ページの場合
著者氏名、表題、掲載(更新)年月日[引用日]、URL
例) 大阪府健康福祉部地域保健福祉室疾病対策課. 大阪府におけるHIV感染者情報. 2005 [引用2005-03-08]. URL: <http://www.pref.osaka.jp/chiiki/shippei/tokutei/aids/hiv.html>
6. 原稿提出
原稿(表紙、本文、図表、写真など)1部、および3.5インチフロッピーディスク1枚を提出する。
7. 投稿原稿の採否、掲載順序、印刷方法、体裁は編集委員会において決定する。なお投稿原稿は2名の査読を経る。
8. 著者校正は原則として再校までとし、新たな追加あるいは変更は認めない。
9. 別刷20部までは無料とし、これを超過する分の経費は著者負担とする。
10. 掲載論文の著作権は、学校法人藍野学院に帰属する。
11. 原稿送付先
〒567-0018 大阪府茨木市太田3丁目9番25号
藍野大学中央図書館内
紀要編集委員会宛
TEL 072-625-6369(内線3242)

藍野学院紀要編集委員会

- 委員長：高 橋 清 久（藍野大学学長）
委員：中 桐 佐智子（藍野大学医療保健学部長）
大 澤 仲 昭（藍野学院短期大学学長）
宮 近 スイ子（藍野学院短期大学副学長）
山 上 賢 一（藍野学院短期大学附属藍野高校校長）
荒 木 啓 元（藍野医療福祉専門学校介護福祉学科長）
砂 川 勇（滋賀医療技術専門学校副校長）
田 中 俊 典（藍野加齢医学研究所教授）
井 出 千 束（藍野学院中央図書館長）
佐 藤 茂 秋（藍野病院院長）
川 島 文 雄（藍野花園病院院長）
東 村 輝 彦（藍陵園病院医師）
石 田 栄 吉（青葉丘病院院長）

藍野学院紀要編集実施委員会

- 委員長：田 中 俊 典（藍野加齢医学研究所）
委員：相 澤 里 香（藍野大学）
森 田 恵美子（藍野大学）
岸 田 秀 樹（藍野大学）
谷 口 直 子（藍野学院短期大学）
太 田 小百合（藍野学院短期大学）
池 上 隆 史（藍野学院短期大学附属藍野高校）

事 務 局

- 増 田 徹（藍野学院中央図書館）
深 由香利（藍野学院中央図書館）

編集後記

平成 20 年度の藍野学院紀要第 22 巻が完成しましたのでお届けいたします。

先号第 21 巻の編集後記を書いたのが、昨年 7 月の終わり、土用の真ただ中のとても暑い日でした。今年は、はや 11 月、紅葉も美しい晩秋になってしまいました。4 ヶ月も遅れてしまったのはひとえに私の怠慢の致す所であり、この場をお借りしまして謹んでお詫び申し上げます。

ところで「もみじ」という言葉は、「木の葉が秋になって赤や黄色に色づく」という意味の自動詞、「もみず」から来ているそうです。その「もみず」は「揉み出す」に由来するとか。昔の人は秋になると木々はその体内に赤い（あるいは黄色い）まるで血液のような樹液を蓄え、その色を揉み出すようにして葉に色をつけてゆくのだと考えていたのだそうです。本当は秋になって気温が下がると葉の中で色素が合成されるので、幹の中が真っ赤などということはないはずなのですが、梢の方から紅葉が日々広がってゆく様子を見てみると、樹木の中から赤い色素が絞り出されてゆくように見えなくもないです。余談ですが、紅葉の赤い色素はアントシアンでポリフェノールの仲間です。つまり抗酸化作用が期待できる訳で、紅葉の天ぷらは意外と体に良いのかもしれないかもしれません……

それはさておき、論文を書くということは高度の知力を要する作業であり、まさに樹木が赤い色素を絞り出すように、脳髓を絞って、血のにじむような努力をして成し遂げられるものです。とするならば知恵をしばり、「揉み出す」ことで生み出された論文は「もみじ」といって良いのではないのでしょうか。無理矢理なこじつけですが、一編一編さまざまな色合いの論文が並んだ様子は、あたかも山裾を彩る紅葉のようです。ぜひ読者の皆様に、この美しい錦模様を楽しんでいただきたいと思います。

最後に著者のみなさまをはじめ、査読を快くお引き受けいただいた先生方、そして膨大な事務処理を黙々とこなされた事務局の方々に深く御礼申し上げます。

（藍野紀要編集実施委員長：田中俊典）

藍野学院紀要 第 22 巻

平成 21 年 3 月 31 日

編集兼発行者 学校法人 藍野学院
〒 567 - 0012
大阪府茨木市東太田 4 - 5 - 4
電話 (072) 627 - 1711 (代)

印刷 明文舎印刷株式会社
〒 601 - 8316
京都市南区吉祥院池ノ内町 10
電話 (075) 681 - 2741